

下関西高新聞

下関市後田町4-10-1
山口県立下関高等学校
新聞編集委員会
新開部 印刷
編集者 新開部
印刷所 アロー

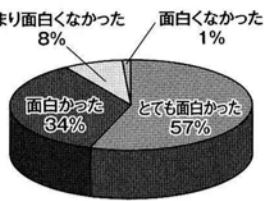
仁心愛

2015年6月5、6

日に旭陵祭が開催された。二日目は一、二年生と文化部による出し物、三年生による食品のバザーが行われた。

我々、新聞部一同は全校生徒を対象にアンケートを実施した。

▼Q今年の旭陵祭は楽しかったか？

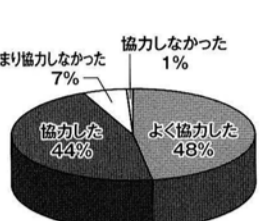


催し物ランキング

- 一位 二年一組 スリッパのリッパさん
- 二位 二年四組 バカッコイ
- 三位 二年六組 ニシコレダンス

今年の旭陵祭が「とても面白かった」「面白かった」と答えた生徒の割合は例年と近しく91%増加こそしていないものの、一昨年は87%であったため良い流れであると思われ、しかしながら、昨年はいかなかった「面白くなかった」と答える生徒がいたのは少し問題だ。スケジ

旭陵祭に協力できましたか？



こちらも多くの人はい例年通り、協力して旭陵祭をつくることのできた。しかしながら「協力しなかった」と答えた者が出てきたことは少し残念だ。催し物ランキング

- 一位 二年一組 スリッパのリッパさん
- 二位 二年四組 バカッコイ
- 三位 二年六組 ニシコレダンス

▼例年通り人気は二年の出し物に集中した。二年一組の「スリッパのリッパさん」は新年より変更された生徒スリッパを

地域に根付いたものを提供し、みんなの心をグッと掴んだのが勝因であろう。私も食べたがおいしかった。

二位のクガストは焼き鳥などを提供した。当日はほおぼるのを見て券を買ってなかったことを悔やんだ。ところがアンケートを見たところ、六組の感想の欄に焼き鳥焼き器は三つでは足りないとのコメントが寄せられていた。もし来年、焼き鳥を売らそうと考える人がいるならば、この先輩の忠告を胸に留めておいてほしい。



三位の三組ははし巻きやタビオカジュースを自玉に据えていた。私はよもや高校の文化祭でタビオカなるものが登場するとは考えていなかったの

- 一位 三年四組 瓦そばくたかし
- 二位 三年六組 クガスト
- 三位 三年三組 くぼだおれ

▼一位の四組は瓦そばを販売し、堂々の一位に選ばれた。瓦そばといえは下関市民のソウルフード。

郷土歴史講座

皆さんは郷土の歴史をご存じだろうか。自分のふるさとの歴史を知り、先人に思いを馳せることは、なかなか楽しいことである。今回から、様々な郷土の歴史話を紹介する。まず一回目は、勝山中学校区から、青山にまつわる話だ。ちなみに、皆さんは青山をご存じだろうか。別名長門富士と言われる美しい形をした山だ。頂上からの眺めは素晴らしい。北側を勝山と四王司山の連峰にさ

えぎられる以外は他に視界をさえぎられることはない。天気の良い日は、遠く響灘に浮かぶ島々が数えられる。勝山地区民の心の山である。

時は戦国時代、青山には城が築かれていた。城主は青山正徳である。青山正徳は近郷を領していた。青山城は位置として文句のない城であったが、ただ一つ、水の手が城は高所にあるため、人が生きるために不可欠な水の確保が死活問題であった。城中に引かれる水、そしてその水路、広く水源を水の手と言った。欠点を克服するために、正徳は勝山に城を築き、弟の源三郎に守らせた。源三郎は生来病弱だったの

で、重臣の高森正倫に補佐させていた。さて、正徳の死後、幼き息子が同じく正徳を称して跡を継いだ。叔父源三郎は勝山を正倫に預け、自らは青山城で正徳の後見をしていた。ある朝、青山城の兵は籠をびしりと取り囲む正倫の軍勢と近隣の津原善勝のほりを見た。正倫の謀反である。気がついた時には遅かった。既に水の手をおさえられ、後世に「青山くずれ」と呼んだ。美しい山の姿に似合わない、悲しい言い伝えである。敵しい乱世を生きたければならなかった人々の苦しみ、恐怖を考えさせられた。ちなみに、城の遺構として、青山・勝山ともに石垣が残っている。

勝山地区には、他にもかつて石伝説や馬姫の話など多くの伝説が伝わっている。豊かな自然と人々の歴史が共生する勝山地区に皆さんも是非、散策・歴史探訪をしに足を運んでみては？

【参考文献】「下関豊浦歴史物語 関門海峡と響灘周辺今昔」(量成博・西嶋量三郎・中原郁生・前田博司・一坂太郎編)ふるさと下関 ふるさと勝山(木村勘一郎)

左奥の三段に構えた山が勝山、右手前にそびえる山が青山



来年の参議院議員選挙より選挙権年齢が十八歳以上に引き下げられる見通しとなっている。これからの時代を担うこととなる若者の意見をより取り入れることができるか期待されている。だが、その若者である我々はどうか。残念ながら私の周辺に政治に関心がある人はあまり多くない。勉強や部活などで忙しく政治に関心を持つことのできない人が多いようだ。我が国は年々財政赤字が深刻化している。例えば平成二十七年予算の歳入の四割弱は将来世代の負担となる借金である。国の借金は国民一人あたり約六百三十八万円に上る。国の借金を減らすにはさらなる増税が必要とされている。一説によれば消費税が三十三パーセント代くらいが必要らしい。これから社会人となる我々には今までの世代以上の負担が強いられることとなるのは間違いない。だが、そもそも日本の財政をここまで危機的な状況に陥らせたのは誰か。答えは今までの世代である。異論があるかもしれない。だが、若者が若くして政治に関与しなければこの状況が改善されることはない。我々は、我々の意志によりこの日本を変えていくことができる。

能動的学びのススメ

旭陵祭の前日の六月五日に本校体育館で文化講演会が行われた。今年は大坂大学副学長であり、また世界的に有名な物理学者である下田正先生を講師にお迎えした。「能動的学びのススメ」グローバル社会を生き抜くために、平成27年度文化講演会

旭陵祭一言感想
初めての旭陵祭だったがとても楽しかった！放送部のおかげでとても賑やかだった。たいやきは儲かるからオススメだ。焼き鳥が買えなかった。お化け屋敷を通じてクラスの結束力が強くな

「能動的学びのススメ」グローバル社会を生き抜くために」という演題で、下田先生のこれまでの研究成果の紹介や、マジックミラーや物体の回転など身近な出来事を実験を通じて物理の視点から、わかりやすく説明してくださいました。

「能動的学びのススメ」グローバル社会を生き抜くために」という演題で、下田先生のこれまでの研究成果の紹介や、マジックミラーや物体の回転など身近な出来事を実験を通じて物理の視点から、わかりやすく説明してくださいました。

「能動的学びのススメ」グローバル社会を生き抜くために」という演題で、下田先生のこれまでの研究成果の紹介や、マジックミラーや物体の回転など身近な出来事を実験を通じて物理の視点から、わかりやすく説明してくださいました。

